



「胃と腸」賞贈呈式が行われた早期胃癌研究会会場(エーザイ本社ホール)

第16回村上記念「胃と腸」賞 細井董三氏(東京都がん検診センター)に

毎月第3水曜日に開かれている「早期胃癌研究会」の6月例会は19日、雨模様の天候にもかかわらず、用意された椅子が足りなくなるほどの聴衆を集めて今回も盛会裡に開催された。席上、いつもながらの熱気溢れる症例検討の合間を縫って、第16回村上記念「胃と腸」賞の贈呈式が行われた。

当日研究会の司会を担当した木村健氏(自治医科大学消化器内科)から今回の受賞論文、「早期食道癌のX線学的深達度診断—m癌とsm癌の鑑別を中心に」(細井董三, 他: 胃と腸第25巻第9号1039頁)が発表された。木村氏はまた、受賞者の細井氏が17年前の自治医科大学消化器内科教室開設時の同僚であったこと、当時より氏のX線診断学の生み出すartとも言うべき「作品」に畏敬の念を抱いてきたことなどに触れ、奇しくも今回贈呈式の司会を担当することになった感慨を述べて細井氏紹介の言葉とした。続いて「胃と腸」編集委員会代表白壁彦夫氏(早期胃がん検診協会)から賞状と賞牌が、金原優医学書院社長から賞金が贈呈され、満場の拍手に包まれた。

引き続き「胃と腸」賞選考委員会を代表して渡辺英伸氏(新潟大学第1病理)より、「胃と腸」第25巻掲載の全論文を対象に①臨床への貢献度、② originality、③ 論文の形式について慎重に審査して3篇の候補論文を選び、その中から全編集委員の投票によって受賞論文が決定したこと、細井氏とそのグループが内視鏡による食道癌の早期診断研究の基盤の上に、極めて困難とされてきた食道m癌、sm癌の鑑別をX線的に見事に描出し、診断学の限界に挑戦したことが受賞の理由となったことなど、選考の経過が述べられ、今後もあらゆる手法を駆使

して食道早期癌の深達度診断の研究に寄与されるように期待すると祝辞を述べた。

最後に受賞者の細井氏が立って、まず恩師である白壁彦夫氏、西沢護氏への感謝の言葉を述べたあと、「今回の受賞は、このところ内視鏡にやや遅れをとっている感のあるX線診断に携わる者への励ましと受け止め、早期食道癌診断へいっそう邁進する」との決意を述べて受賞の言葉とした。



白壁彦夫氏より賞状を受ける細井董三氏



選考経過を述べる渡辺氏

受賞の挨拶をする細井氏